



江口
 林院
 蔵
 五



かゝるありとてと都りて公証

よと今都にゆくやと存心

花れあはたふむらぐ月そやう

づらり合らし鳥のたひく物付

らくほくこまらる妻れ秋の月れ

あふまをたりり 上美 あり

まわく我の東ふ登るる月

の月のあり海極のひく月浦

とく 上美 松のけむるありと

のくあまの海く 上美 月と

いさり火乃ありとまは難波

海よ渡りやこの花をこもり今

二二二 藤
三三三 小郡 秋の 暮るる 時
二二二 橋に 油を し あり 雲の 林に 雲
二二二 夕の 影に 入る 家も 花を
二二二 花の 影に 入る 家も 花を
二二二 花の 影に 入る 家も 花を
二二二 花の 影に 入る 家も 花を
二二二 花の 影に 入る 家も 花を

二二二 花の 影に 入る 家も 花を
二二二 花の 影に 入る 家も 花を
二二二 花の 影に 入る 家も 花を
二二二 花の 影に 入る 家も 花を
二二二 花の 影に 入る 家も 花を
二二二 花の 影に 入る 家も 花を

二二二 花の 影に 入る 家も 花を
二二二 花の 影に 入る 家も 花を
二二二 花の 影に 入る 家も 花を
二二二 花の 影に 入る 家も 花を
二二二 花の 影に 入る 家も 花を
二二二 花の 影に 入る 家も 花を

いせり人うらら河からりせりあ

人そこれる路く 甲 こそ花のうそ

ぬきし色をわりぞきんもらるる

と花もひしあひそ 乙 こそよ

らふと花なもそ花はうらら

わら 丙 こそ色をうららと

たしは花からり 早 こそ花は

も花うらら 早 何とこそ

は神金それ 景 こそ人様

手 景 こそ花の 早 こそ

よ 早 こそ 早 こそ

又者舟は 早 こそ花の 早 こそ

伊豫地所の根中どの仲をたや

ひく女性ハ二条れをいふに初水山

後じくさるる雲ね林の秋に多

さああ存りあつたあうさひく作

程よあままうてあつての 年 扱は

は身れんとうんくつでいさあもの

やまときんかんの今宵の舞 早

かあひ別人多くは 早

よきくふ本れりふ神とが 言

さうくえん 言

まじ絲の夏と約あつたが 早

しうさうう 早

く教り合はるはいつかた人を見ん

情 せらぬはひれあひをびり男

中みしあはぬ 置 梅はたらのひ

まきまはぬさう 上青 我若と

何と夕夕のツクたよ思ふは

木のくしれ月よあはれぬは

いと悲家一をされば花は海小結

く教り合はるはいつかた人を見ん

もくまんとがれ室のひくかた

りぬとくしあはれ小きれ

いんらくは未陰の月よあはれ

あふはなをれを教神とく

の病とそめきうそむいん
ト
おとらかりて
れほそぶのぶめと
下
ハ家もたよか
カ
神日のしれらに名
我おららよ
杯花つらり
こしらたりし
まふらぬ

きのまらふびぬきりかたし
ねれあちりせえく
くさけりこれ葉のり
そめいづくあもせえあれり
たりふりも

實盛 世出ニ推す 位早強 五

れしあちり
やちり
あま
あま
あま

入道のころはひる法のまじり

あまやちやちやもんあ念念

あまやちやちやもんあ念念

あまやちやちやもんあ念念

あまやちやちやもんあ念念

あまやちやちやもんあ念念

あまやちやちやもんあ念念

あまやちやちやもんあ念念

あまやちやちやもんあ念念

あまやちやちやもんあ念念

あまやちやちやもんあ念念

あまやちやちやもんあ念念

春
しんじつひるまゝよけりあはれ

いぢめいふらびか人があにん

あなをとりわくはあのみあはだ

しんめい下ひびんあまんら

かへりあまをながくし

名の時あはれあはれあはれ

くちをんげれたあはれあはれ

しんじつひるまゝよけりあはれ

のあはれあはれあはれあはれ

あまのあはれあはれあはれあはれ

かみあはれあはれあはれあはれ

よあはれあはれあはれあはれ

三十一
三十一
三十一
三十一
三十一

三十一
三十一
三十一
三十一
三十一

三十一
三十一
三十一
三十一
三十一

三十一
三十一
三十一
三十一
三十一

三十一
三十一
三十一
三十一
三十一

三十一
三十一
三十一
三十一
三十一

三十一
三十一
三十一
三十一
三十一

三十一
三十一
三十一
三十一
三十一

三十一
三十一
三十一
三十一
三十一

三十一
三十一
三十一
三十一
三十一

三十一
三十一
三十一
三十一
三十一

三十一
三十一
三十一
三十一
三十一

あつたむきぬくはねむらさき

はらばらけむらさきむらさき

はらばらけむらさきむらさき

はらばらけむらさきむらさき

はらばらけむらさきむらさき

はらばらけむらさきむらさき

はらばらけむらさきむらさき

はらばらけむらさきむらさき

はらばらけむらさきむらさき

はらばらけむらさきむらさき

はらばらけむらさきむらさき

はらばらけむらさきむらさき

五
五

よ梅梅のちみちをたぐりては

くまの海はうらやまのうらやま

いかりのうらやまのうらやま

よのうらやまのうらやま

ふらふら春のうらやま

いづれかへはうらやまのうらやま

わさびのうらやまのうらやま

うやまのうらやまのうらやま

ホミのうらやまのうらやま

まよひのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま



大郎光重が御書に云はるる事也

よや、光重の御書に云はるる事也

くんとくひあててくだるゝ事也

くんとくひあててくだるゝ事也

くんとくひあててくだるゝ事也

くんとくひあててくだるゝ事也

くんとくひあててくだるゝ事也

くんとくひあててくだるゝ事也

くんとくひあててくだるゝ事也

くんとくひあててくだるゝ事也

くんとくひあててくだるゝ事也

くんとくひあててくだるゝ事也

水ミヅはハ流ナるルはハしシらラるル柳ヤナギのノ花ハナ

名ナをヲ呼ヨぶブはハしシらラるル風カゼのノ音ネ

月ツキのノ光ヒカリはハしシらラるル花ハナのノ影カゲ

波ナミのノ音ネはハしシらラるル水ミヅのノ色イロ

鳥トリのノ声コエはハしシらラるル空ソラのノ色イロ

山ヤマのノ影カゲはハしシらラるル水ミヅのノ音ネ

花ハナのノ影カゲはハしシらラるル水ミヅのノ色イロ

水ミヅのノ音ネはハしシらラるル空ソラのノ色イロ

山ヤマのノ影カゲはハしシらラるル水ミヅのノ音ネ

花ハナのノ影カゲはハしシらラるル水ミヅのノ色イロ

水ミヅのノ音ネはハしシらラるル空ソラのノ色イロ

山ヤマのノ影カゲはハしシらラるル水ミヅのノ音ネ

實録

から^きの^り生^まる^は後^らの^者

し^くひ^ひの^道の^道の^道の^道

ま^くし^うの^のの^のの^のの^の

ま^くし^うの^のの^のの^のの^の

ま^くし^うの^のの^のの^のの^の

ま^くし^うの^のの^のの^のの^の

ま^くし^うの^のの^のの^のの^の

ま^くし^うの^のの^のの^のの^の

ま^くし^うの^のの^のの^のの^の

ま^くし^うの^のの^のの^のの^の

ま^くし^うの^のの^のの^のの^の

ま^くし^うの^のの^のの^のの^の

毎々感と
くじきと
中一
百廿一
百廿二
百廿三
百廿四
百廿五
百廿六
百廿七
百廿八
百廿九
百三十
百三十一
百三十二
百三十三
百三十四
百三十五
百三十六
百三十七
百三十八
百三十九
百四十
百四十一
百四十二
百四十三
百四十四
百四十五
百四十六
百四十七
百四十八
百四十九
百五十
百五十一
百五十二
百五十三
百五十四
百五十五
百五十六
百五十七
百五十八
百五十九
百六十
百六十一
百六十二
百六十三
百六十四
百六十五
百六十六
百六十七
百六十八
百六十九
百七十
百七十一
百七十二
百七十三
百七十四
百七十五
百七十六
百七十七
百七十八
百七十九
百八十
百八十一
百八十二
百八十三
百八十四
百八十五
百八十六
百八十七
百八十八
百八十九
百九十
百九十一
百九十二
百九十三
百九十四
百九十五
百九十六
百九十七
百九十八
百九十九
百

...

...

がさあゆらゆら
ひくばわぶらひくばわぶら
くらのしらけりかたけり
のしらあまのありの
らとがなびわら
はるるるるるるるるるる

はは

曲出斤梅子口傳
佐用打切ヨリ云

月いびのまあ
はくか
一見の僧
ま
び

のりくわんからくまじりあふふあふ

らんせいひあふれりあふへあふ

らりあふ^きあふくわんから僧

今の寺と何とあひりてんあ

まひあひそ^早あふあふ

今くあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

三

三

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or title.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Small handwritten characters on the left margin.

Small handwritten characters on the left margin.

あまのひそくたかきつもの
しらべひなをことなまがしふも
うみのかみん 女上 いたそくはたを
ひもほのくしがんくまがかり
くほよにほれたるしの君あかん
しりや 地 ぬきあかん
あまのあまのあまの
くせれ 地 梅のしらあかん
あまのひそく 下回 いたそくはたを
あまのうけやあかん 下 いたそくはたを
うみのかみん 女上 いたそくはたを
あまのあまのあまのあまの

上

下

に...
は...
梅に...
あ

は...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

篇

らうあわし何れも

悲しやあまの

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

あがあまららるる

一七

と世の乃ち人かたの物とてかきあ

くふらひんをあらはしむるひたんの

はとつらるるの國分るあまのま

まふかたへ 上巻二九一 世上一

さきびんはあまのまらんと風

のま 下二

ふらひんをあらはしむるひたんの

はとつらるるの國分るあまのま

まふかたへ 上巻二九一 世上一

さきびんはあまのまらんと風

のま 下二

ふらひんをあらはしむるひたんの

はとつらるるの國分るあまのま

まふかたへ 上巻二九一 世上一

さきびんはあまのまらんと風

のま 下二

先の海へさへはるるか

今いかなふくつてはるる我の鐘也

とつるを去かりのなやみ

まんよるるをくもつれんとし

今いかなふくつてはるる我の鐘也

とつるを去かりのなやみ

まんよるるをくもつれんとし

今いかなふくつてはるる我の鐘也

とつるを去かりのなやみ

まんよるるをくもつれんとし

今いかなふくつてはるる我の鐘也

とつるを去かりのなやみ

鐘也

光をすくはるる風をへくせり
 松のまはりの木も何れも
 ひさかたの人もあはれ
 そらぬ花もさくらといひと
 のちのちの人のこころも
 せんすくはるる水のか
 わしひらのまはりの人も
 縁細殿のうらみも
 ひとしきき花も
 りもはるる花も
 花も

うしなぐみおとらみ完力杖の
かんあーん増ヤラにふよ成と
し中長さうり杖さうりてかん花と
あおひ時うのさうい後して
たのしひさくふさうておなひ
いあ上まあるた杖かた花の
よが花よりいさうりあさ物ち
うひらふのたあううさうのらして
よと杖風乃打けいさたじまわ
田舎のきと鳴くまくの回あ
一さうしうらみらとあさうん
あかたかたうう人あといんあ

書子

五

あはれなる心 四句 老にゆくははる

くさくさたる昔のよきことばは

くさくさたる今もあはれなる

くさくさたるよきことばは

えいせいなるらるる海にのすゝめ

らるる 四句 らるる

らるる 四句 らるる

主母の 四句 涙の

あはれなる 四句 樹の

あはれなる 四句 地

あはれなる 四句 水

あはれなる 四句 心

種也

まらりしあしものあらなる
かひはいほるの威まながりて
ふかやち地よあまのちが
まとなりてさすは國と
なかりしものあり
入るる

佐田強居

まらりしあしものあらなる
かひはいほるの威まながりて
ふかやち地よあまのちが
まとなりてさすは國と
なかりしものあり
入るる

Handwritten musical notation on two pages of a manuscript. The notation consists of a series of rhythmic stems and beams, characteristic of early printed music notation. The notation is arranged in several staves across both pages. The right page contains approximately 10 staves of notation, while the left page contains approximately 10 staves. The notation is written in black ink on aged, yellowed paper. There are some faint markings and possibly some illegible text or numbers interspersed between the musical staves. The overall appearance is that of a historical musical score or a collection of rhythmic exercises.

二二三
二二四
二二五
二二六
二二七
二二八
二二九
二三〇
二三一
二三二
二三三
二三四
二三五
二三六
二三七
三三八
三三九
三四〇
三四一
三四二
三四三
三四四
三四五
三四六
三四七
三四八
三四九
三五十
三五一
三五二
三五三
三五四
三五五
三五六
三五七
三五八
三五九
三六〇
三六一
三六二
三六三
三六四
三六五
三六六
三六七
三六八
三六九
三七〇
三七一
三七二
三七三
三七四
三七五
三七六
三七七
三八〇
三八一
三八二
三八三
三八四
三八五
三八六
三八七
三八八
三八九
三九〇
三九一
三九二
三九三
三九四
三九五
三九六
三九七
三九八
三九九
四〇〇

あはれなるものこそよきまゝにまゐり
よそをあきらみ井らにまゐり
あはれなるものこそよきまゝにまゐり
よそをあきらみ井らにまゐり
あはれなるものこそよきまゝにまゐり
よそをあきらみ井らにまゐり
あはれなるものこそよきまゝにまゐり
よそをあきらみ井らにまゐり

あはれなるものこそよきまゝにまゐり
よそをあきらみ井らにまゐり
あはれなるものこそよきまゝにまゐり
よそをあきらみ井らにまゐり
あはれなるものこそよきまゝにまゐり
よそをあきらみ井らにまゐり
あはれなるものこそよきまゝにまゐり
よそをあきらみ井らにまゐり

あはれなるものこそよきまゝにまゐり
よそをあきらみ井らにまゐり

上
 下
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, spanning two pages. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is highly stylized and difficult to decipher. The text is organized into several vertical columns, with some lines starting with a small symbol resembling a comma or a specific character. The right page shows some signs of wear and discoloration, particularly near the top edge.

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

